

公共料金にも消費増税

市議会12月定例会が始まりました。今議会には、来年4月に予定されている消費税の3%引き上げを、各種公共料金にも上乘せする議案が出ています。関係する議案は21本、内容は以下のとおりです。市の公共料金のほとんどに増税分が上乘せされることになります。

【消費税増税により料金改定するもの】

水道料金 下水道料金 体育館、野球場などの運動施設利用料金
市民会館、文化会館、公民館、ジェフリーなどの文化施設利用料金
霊柩車、斎場使用料 道路・河川占用料、公園使用料など

また、中学校給食センターの工事契約議案も、工期が増税後の平成27年1月のため、入札金額に8%をかけた契約になっています。4月からは工事や物品購入のすべてが増税分アップするため、その分予算が目減りします。

体育館や運動施設の管理が市体協に

市の各施設の管理運営を「指定管理者」に5年間委託する議案が15本提案されています。この内、市立体育館・武道館・野球場・陸上競技場・プールなどの運動施設については、一括してNPO法人鈴鹿市体育協会が行なうこととされています。これまで民間業者も入った管理形態だったのを、より公共的な団体である市体育協会に一本化したものです。

また、新たに指定管理とされる佐佐木信綱記念館についても、地元石薬師の佐佐木信綱顕彰会による管理となります。今回の議案では、民間会社への委託は3施設に減って、それぞれの施設に関する地元団体への委託がほとんどになりました。一時「何でも民間がよい」という傾向がありましたが、やはり公共施設は地域密着でという方向に変わってきました。

R 306旧道の安全対策を提案します



国道306号伊船バイパスの南半分が開通して、3年半たちましたが、バイパスに回るはずの通過車両がそのまま旧道を通るので、伊船・長沢町内は危険なままの状態が続いています。朝夕は四日市方面・亀山方面からの車両のラッシュです。（写真）

バイパス北半分の工事はまだ着手されず、全線開通の見通しはありません。このままでは、大きな事故や住民の被害がいつ起きるか心配です。

私は12月議会に向けて、安全対策の具体的な提案をしました。

いま306旧道は、バイパス開通後も開通前と同じく2車線、制限速度40キロのままで、車両が通りやすい状態です。また県管理の国道のままで市道に移管されていません。

問題を解決するために、旧道部分を市道に移管し、住民のための生活道路であることを明確にする。旧道のセンターラインを消し、両側に歩道ゾーンを広くとる。この区間の制限速度を30キロに引き下げる。

このような改善によって、通過するだけの車両は、旧道を通るよりもバイパスに回る方が早いことになります。旧道を通る場合は、歩行者に配慮しながら低速で運転してもらいます。道路自体の幅は変わらないので、バスや地元車両が通る支障にはなりません。小中学生の通学も安全になります。またこの方法は、路面表示や道路標識を変えるだけで、大きな工事もなく、予算もかかりません。

この提案を市で検討してもらい、住民の声も聞きながら早く実現できるように、頑張りたいと思います。

「ふまねっと」を体験しました

11月21日、年金者いきいき祭で「ふまねっと」を体験しました。50センチ四方のマス目の大きな網を敷き、網を踏まないようにゆっくり歩く運動です。「右、左」とステップを間違えないように歩くだけです。やってみると失敗ばかりでした。高齢者に最適です。



再生可能エネルギー普及フォーラムに参加しました

11月16～17日、長野県大町市で「再生可能エネルギー普及全国フォーラム2013」が開かれました。福島原発事故の痛苦の体験をもとに、「いまこそ原発依存から再生可能・自然エネルギーへの転換を」すすめようと、科学者や環境団体、消費者団体や自治体関係者などが集まって、議論や交流が行なわれました。



全体会では、国会で原発問題を追及してきた元衆院議員・吉井英勝さんが、原発依存政策のカラクリを分かりやすく解明しました。また、地元大町市で活動するNPO地域づくり工房から、自然エネルギーの取り組みとユニークな地域おこし活動が報告されました。分科会では、木曾町の田中町長や、市民共同発電所に取り組む方たちから、具体的な報告がありました。

マイクロバスで大町市内を回って、農業用水の落差を利用した小水力発電所（写真）やミニ水力発電、廃油のディーゼル燃料化、菜種油製作などの現地を見学しました。どれも「地域にある資源を見直し、それを活用する」「中央集約型から地産地消型へ」、そして地域の自立へつなげる確かな方向を持ったものでした。たいへん勉強になった2日間でした。

秋晴れの下、市民入道ヶ岳登山大会

11月9日、鈴鹿山溪観光協会主催の市民登山大会が行なわれました。去年に続いて2回目の開催です。参加者は市民45人、案内する鈴鹿山岳会の皆さん15人、最年少は5歳、最高齢は80歳。ゆったりしたペースで、全員が頂上へ上がりました。天気もよく、伊勢湾や遠くの山々も眺められました。



私の今年の山行は、鈴鹿の山は野登山、御在所岳・国見岳、三池岳、入道ヶ岳。夏に八ヶ岳に2回（赤岳・横岳・硫黄岳）出かけました。これからもできるだけ時間を作って、いろんな山に登りたいと思います。

ずいそう



「三匹のおっさん」活躍す

有川浩著の小説「三匹のおっさん」正・続（文芸春秋）を、その面白さに引き込まれて読んだ。還暦・定年を迎えた3人の同級生「おっさん」たちが、地方都市のご町内でいろいろ起こる「事件」に立ち向かうために、私設自警団を始める。事件といっても、詐欺や痴漢、動物虐待、ゴミの放置、放火、万引きなどの小さなものばかりだが、町内にとっては厄介な事件である。

三匹のメンバーは、会社を退職した剣道の達人、居酒屋店主で柔道家、頭脳派でいろいろな「武器」を発明する工場主という、個性豊かな人物である。三匹は夜な夜な居酒屋で作戦を練り、夜の町内をパトロールし、知恵と腕前とチームワークで犯人をつかまえる。しかも、表に出ることはせずに、さっと身を引く。自称「正義の味方」だが、彼らの行動は「三匹の悪ガキ」でイタズラをして遊んでいたことの延長で、楽しみながら事件に取り組んでいるのである。時にはそれぞれの家族も巻き込みながら、危ない目にもあいながら、ご町内の平和のために活躍する姿は、すがすがしくて面白い。

おじいさんとは呼ばれたくない、元気なおっさん

還暦をすぎた60代、往年の体力はないがまだまだ元気だ。孫から見れば「おじいさん」だが、他人からはそう呼ばれたくない。第一線からは引いたが、長年の仕事などで培った腕や知恵や技術も活かしたい。少年のころに夢見た「正義の味方」になって、人の役に立ちたい。一方では、くだらないイタズラや面白いこともしたい。

そんな我らの世代の気持ちを代弁して活躍する三匹に、読者の共感と支持が寄せられているのだろう。若い人たちが読んでも、同じように感じるのだろうか？ ちょっと違うだろうな。本の中ではおっさんたちが、子どもや孫から「カッコイイ」と言われるような場面もあるが。

おっさんたちのパワーは、続編では長年とだえていた町内の祭りの復活にも一役買うことになって、地域住民のつながりも良くなっていく。いま全国どこの町を見ても、なかなか以前のような元気がない。しかし、その町で生まれ暮らしてきた人たちが、自分の町に目を向けて動き出している。おっさんの出番が来ているのではないか。